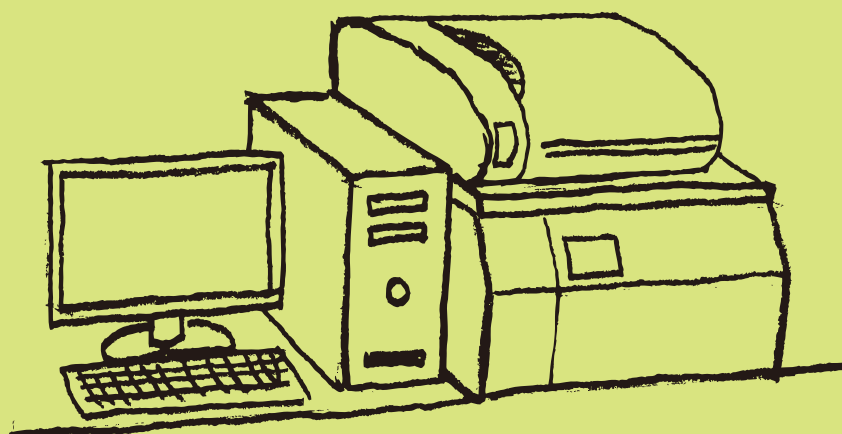
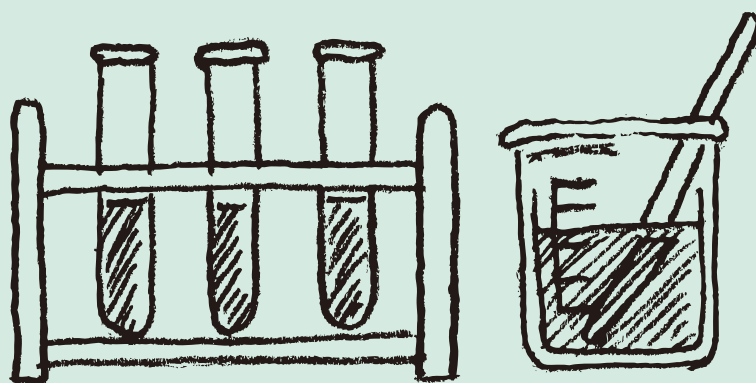
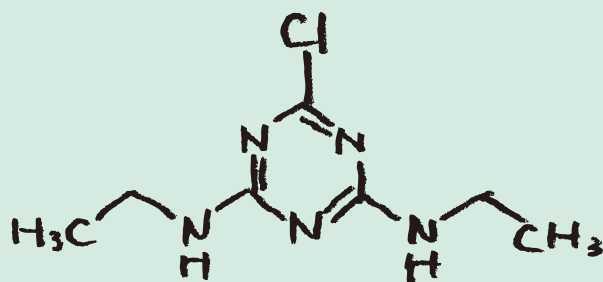


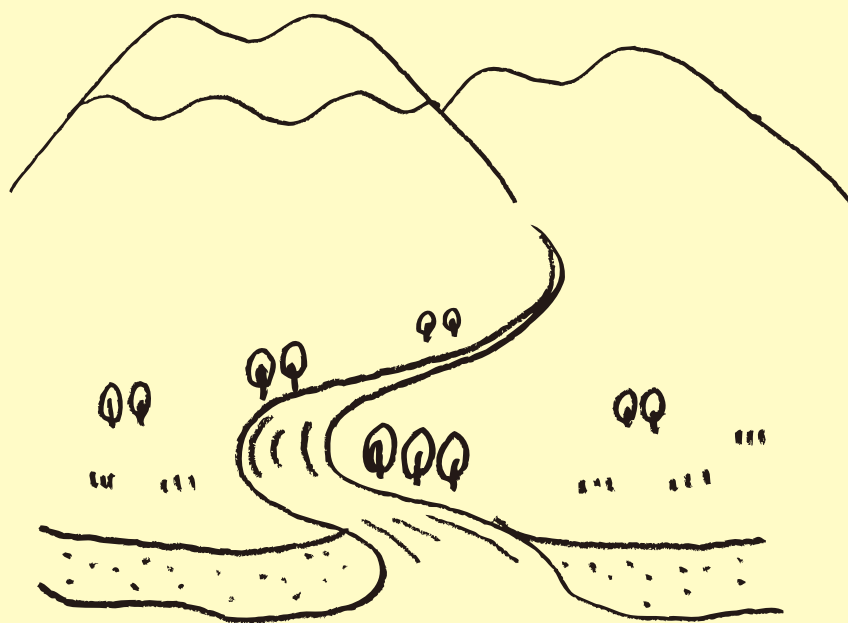
第2 業務内容



1 試験検査等



環境部門



1 試験検査業務

(1) 有害大気汚染物質調査(環境大気)

環境局環境保全課からの行政依頼検査として、揮発性有機化合物(ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、塩化メチル、トルエンの11物質)、金属類(ニッケル、ヒ素、ベリリウム、マンガ、クロムの5物質)、アルデヒド類(ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド)、多環芳香族炭化水素類(ベンゾ[a]ピレン)及び酸化エチレンの20物質の有害大気汚染物質について、市内の4ヵ所で採取した環境大気試料の分析を行った。分析結果を表1に示す。

(2) 微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析

環境局環境保全課からの行政依頼検査として、市内1地点の微小粒子状物質(PM2.5)の3成分(無機成分、イオン成分、炭素成分)の分析を行った。

試料採取期間は、春期、夏期、秋期、冬期の4期各2週間とし、その間毎日採取を行った。

(3) 特定悪臭物質検査

環境局監視指導課からの行政依頼検査として、工場・事業場の敷地境界で採取した試料について、悪臭防止法で指定される特定悪臭物質の分析を行った。

分析対象悪臭物質名及び検体数を表2に示す。

いずれの検体についても、規制基準を満たしていた。

(4) 環境測定分析統一精度管理

職員の能力向上及び分析精度の確保を目的として、環境省が実施する環境測定分析統一精度管理調査に参加し、水質試料のCODとpHの分析を行った。いずれの項目についても、分析試料の設定値とのずれは小さく、良好な結果であった。

(5) 廃棄物処分場の放流水等の水質検査

環境局施設課からの行政依頼検査として、市が運営する廃棄物処分場(響灘西地区廃棄物処分場他)の放流水等の水質検査(ダイオキシン類を除く排水基準が定められた全項目)を実施した。

いずれの検体についても、処分場の排水基準を満たしていた。

(6) ごみ焼却工場の放流水等の水質検査

環境局施設課からの行政依頼検査として、平成26年4月から市が運営するごみ焼却工場(日明工場、皇后崎工場)の下水道放流水等の水質検査(ダイオキシン類、PCB及びびよう素消費量除く放流基準が定められた全項目)を実施した。

いずれの検体についても下水道放流基準を満たしていた。

(7) 苦情等に伴う臨時試験検査

環境局や建築局、建築都市局及び八幡東区役所から、苦情等に伴う20件(計43検体)の検査依頼があった。それらの内容を表3に示す。

表1 平成26年度 有害大気汚染物質分析結果(環境大気)

	項目(揮発性有機化合物)	検体数*	最小	～	最大
1	アクリロニトリル	48	<0.007	～	1.3
2	塩化ビニルモノマー	48	<0.009	～	0.23
3	クロロホルム	48	0.088	～	0.68
4	1,2-ジクロロエタン	48	0.084	～	1.2
5	ジクロロメタン	48	0.25	～	3.3
6	テトラクロロエチレン	48	0.038	～	2.6
7	トリクロロエチレン	48	<0.01	～	0.19
8	ベンゼン	48	0.45	～	9.5
9	1,3-ブタジエン	48	0.0070	～	0.37
10	トルエン	48	0.95	～	17
11	塩化メチル	48	1.1	～	9.5
12	ニッケル化合物	48	1.2	～	31
13	ヒ素及びその化合物	48	0.52	～	5.9
14	ベリリウム及びその化合物	48	0.0039	～	0.076
15	マンガ及びその化合物	48	5.8	～	190
16	クロム及びその化合物	48	1.4	～	180
17	ホルムアルデヒド	48	1.3	～	7.5
18	アセトアルデヒド	48	0.62	～	3.7
19	ベンゾ[a]ピレン	48	0.021	～	5.4
20	酸化エチレン	48	0.027	～	0.61
	合計	960			

* 検体数は延べ数

* 項目1～11及び17, 18, 20の単位は[$\mu\text{g}/\text{m}^3$]、他の項目の単位は[ng/m^3]

表2 平成26年度 分析対象悪臭物質及び検体数

分 類	物 質 名	検体数*
硫黄系悪臭物質	硫化水素	14
	メチルメルカプタン	14
	硫化メチル	14
	二硫化メチル	14
アンモニア	アンモニア	10
トリメチルアミン	トリメチルアミン	6
脂肪酸類	プロピオン酸	10
	ノルマル酪酸	10
	ノルマル吉草酸	10
	イソ吉草酸	10
アルデヒド類	アセトアルデヒド	4
	プロピオンアルデヒド	4
	ノルマルブチルアルデヒド	4
	イソブチルアルデヒド	4
	ノルマルパレルアルデヒド	4
	イソパレルアルデヒド	4
炭化水素類	酢酸エチル	6
	イソブタノール	6
	メチルイソブチルケトン	6
	トルエン	6
	キシレン	6
	スチレン	6
合 計		172

*検体数は延べ数

表3 平成26年度 苦情等に伴う臨時試験検査

No	依頼月日	依頼課・局	検体種類	検体数	調査内容
1	H26年 4月8日	環境局監視指導課	農業用水	1	COD等
2	5月13日	環境局監視指導課	粉じん	1	電子顕微鏡観察 (形状、組成)
3	5月15日	環境局環境保全課	井戸水	1	油種
4	5月20日	環境局監視指導課	廃液	1	重金属
5	6月19日	八幡東区 まちづくり整備課	固形物	1	電子顕微鏡観察 (形状、組成)
6	7月3日	八幡東区 まちづくり整備課	固形物	1	電子顕微鏡観察 (形状、組成)
7	7月8日	八幡東区 まちづくり整備課	水路流入水	2	油種
8	7月14日	環境局監視指導課	河川水等	2	油種
9	7月16日	環境局監視指導課	河川水	2	油種
10	8月7日	建築都市局機械設備課	固形物	1	電子顕微鏡観察 (形状、組成)
11	8月8日	環境局 環境未来都市推進室	河川水中環境 生物	1	顕微鏡観察
12	8月28日	環境局環境保全課	降下ばいじん	5	電子顕微鏡観察(形 状、組成)、重金属
13	9月25日	環境局監視指導課	粉じん	11	電子顕微鏡観察(形 状、組成)、重金属

14	10月8日	上下水道局 水質管理課	オイルボール	1	油種、電子顕微鏡観察(形状、組成)
15	10月21日	環境局 産業廃棄物対策室	安定器内容物	1	油種
16	12月16日	建設局 西部・工務第一課	河川水	4	一斉分析、イオン成分
17	12月22日	環境局監視指導課	粉じん	1	電子顕微鏡観察(形状、組成)
18	H27年 1月13日	建築都市局学術・研 究都市開発事務所	ため池水	1	重金属、農薬等
19	1月20日	環境局監視指導課	廃液	4	イオン成分、重金属
20	1月20日	環境局日明工場	焼却灰	1	重金属

2 受託業務

(1) 化学物質環境実態調査

環境省は「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)の施行に伴い、一般環境中の既存化学物質の残留状況の把握を目的として、数万種類の既存化学物質を総点検し、その中から約1,100物質を選び、化学物質環境汚染実態調査を実施している。

当研究所は調査開始当初からこの調査に参加し、平成26年度も調査対象化学物質の環境残留状況の把握を目的とした初期・詳細環境調査、POPs条約対象物質及び化審法第1,2種特定化学物質等の環境実態を経年的に把握することを目的としたモニタリ

ング調査を行った。

平成26年度に実施した調査内容を次に示す。

① 初期・詳細環境調査

環境調査を行った化学物質を表4に示す。北九州観測局で採取した大気試料、洞海湾で採取した水質試料について各々の物質の分析を行った。

② モニタリング調査

モニタリング調査の対象物質を表5に示す。調査試料は洞海湾で採取した水質1検体、底質3検体で、当研究所では試料採取及び前処理を実施した。

③ 分析法開発

GC/MS-SIM法による1,3-ビス [(2,3-エポキシプロピル)オキシ]ベンゼンの分析法開発を行った。

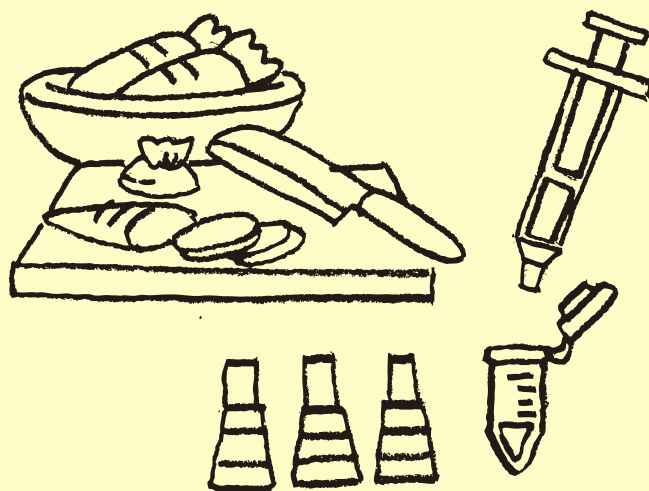
表4 初期・詳細環境調査対象物質

水質試料	1,2-ジクロロ4-ニトロベンゼン
大気試料	酢酸2-メトキシエチル ブタン-2-オン=オキシム

表5 モニタリング調査対象物質

PCB類 ヘキサクロロベンゼン(HCB) ディルドリン エンドリン DDT類 ヘプタクロル類	ヘキサクロロシクロヘキサン(HCH)類 ポリブロモジフェニルエーテル類 ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS) ペルフルオロオクタノ酸(PFOA) ペンタクロロベンゼン 1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン(HBCD)
---	---

衛生化學部門



1 試験検査業務

(1) 食品添加物の検査

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼による輸入食品40検体、延べ91件について保存料等の食品添加物の検査を行った。添加物名、食品の種類及び検査件数については表1のとおり。

表示、使用基準、残存基準とも違反はなかった。

表1 輸入食品中の食品添加物検査件数一覧表

添加物名	食品の種類	検査件数
保存料 (ソルビン酸)	かん詰・びん詰食品	1
	野菜、果実、その加工品	5
	菓子類	4
	酒精飲料	6
	穀類加工品	1
酸化防止剤 (BHA, BHT, TBHQ)	菓子類	9
	穀類加工品	1
漂白剤・酸化防止剤 (亜硫酸塩)	かん詰・びん詰食品	4
	野菜、果実、その加工品	8
	菓子類	5
	酒精飲料	7
	穀類加工品	3
着色料 (酸性タール色素)	かん詰・びん詰食品	5
	野菜、果実、その加工品	6
	菓子類	15
	酒精飲料	2
	穀類加工品	2
甘味料 (サッカリンNa)	かん詰・びん詰食品	1
	野菜、果実、その加工品	6
総 計		91

(2) 食品中の有害物質等の検査

① 貝 毒

保健所食品監視検査課の依頼により、国産及び輸入品のあさり、しじみ、ハマグリ等二枚貝5検体の麻痺性貝毒の検査を行った。いずれも定量限界値未満であった。

② カビ毒(総アフラトキシン)

教育委員会学校保健課の依頼により、ピーナッツバター2検体の総アフラトキシンの検査を行った。結果は全て定量限界値未満であった。

③ 残留動物用医薬品(保健福祉局依頼分)

保健所食品監視検査課の依頼により、鶏卵6検体及び鶏肉2検体並びに生乳1検体の検査を行った。検査項目は以下のとおり。結果は全て定量限界値未満であった。

ア 鶏卵及び鶏肉の検査項目

スルファメラジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシシ、スルファジメトキシシ、スルファキノキサリン、オキシソリン酸、チアンフェニコール、オルメトプリム、トリメトプリム、ピリメタミン、ナイカルバジン、フルベンダゾール、オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン、スピラマイシン(鶏肉のみ)

イ 生乳の検査項目

スピラマイシン、スルファジミジン、チアベンダゾール、オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン

④ 残留動物用医薬品(教育委員会依頼分)

教育委員会学校保健課の依頼により、豚肉28検体の検査を行った。検査項目は以下のとおり。結果は全て定量限界値未満であった。

ア 豚肉の検査項目

スルファメラジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシシ、スルファジメトキシシ、スルファキノキサリン、オキシソリン酸、チアンフェニコール、オルメトプリム、トリメトプリム、ピリメタミン、チアベンダゾール、フルベンダゾール

⑤ 養殖魚介類中の有害化学物質

保健所食品監視検査課の依頼により、養殖魚介類15検体について、トリブチルスズ(TBT)、トリフェニルスズ(TPT)、及び動物用医薬品8種類(鶏卵及び鶏肉の検査項目のうちスルファメラジンからオルメトプリムまで)の検査を行った。

その結果、TBTはマサバ、ブリからそれぞれ0.01、0.01 $\mu\text{g/g}$ が、TPTはブリ、ヒラメ、マアジからそれぞれ0.01、0.01、0.03 $\mu\text{g/g}$ が検出された。

動物用医薬品は全て定量限界値未満であった。

⑥ バナナの防かび剤

教育委員会学校保健課の依頼により、バナナ4検体(各全果及び果肉)のチアベンダゾールの検査を行った。結果は全て定量限界値未満であった。

⑦ パン類等のアレルギー物質

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼によりロールパン、バケット、せんべい、ハンバーグ等16検体について特定原材料「卵」及び「乳」を対象として検査を行った。異なる二つのキットで共に陽性の結果が得られた場合を陽性と判断するが、結果は「卵」及び「乳」とも検体は全て陰性であった。

⑧ 魚類中のヒスタミン

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、アジの開きやサバみりん干し、いわしの明太子漬け等10検体についてヒスタミンの検査を行った。結果はすべて定量限界値未満であった。

(3) 健康食品中の医薬品の検査

保健所医務薬務課の依頼により、痩身を目的とする健康食品5検体についてシブトラミンの検査を行った。結果は全て定量限界値未満であった。

(4) 残留農薬の検査

① 輸入野菜・果物

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、輸入野菜・果物10検体について、表5に示す231農薬の検査を行った。

結果は表2に示すように、バナナ(フィリピン産)・レモン(アメリカ産)にクロルピリホス、グレープフルーツ(アメリカ産)にフェンプロパトリン、バナナ(グアテマラ産)にマイクロブタニル、冷凍果実ブルーベリー(アメリカ産)にシベルメトリン・マラチオン、ほうれん草カット(中国産)にシベルメトリン・メタ

ラキシル及びメフェノキサム(メフェノキサムを除く)が基準値以下であるが検出された。

② その他の野菜・果物(国内産・輸入品)

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、その他の野菜・果物(国内産・輸入品)40検体について、表5に示す231農薬の検査を行った。

結果を表3に示す。

③ 食肉

保健所食品監視検査課の依頼により鶏肉2検体、食肉センターの依頼により牛肉3検体について、塩素系農薬3種(DDT、ディルドリン、ヘプタクロール)の検査を行った。全て定量限界値未満であった。

④ 学校給食物資

教育委員会学校保健課の依頼により、学校給食用の野菜及び果物について、16検体について表5に示す231農薬及びアセフェート、メタミドホス、ジクロロボスを加えた234農薬の検査を行った。加工品であるピーナッツバター2検体については231農薬について検査を行った。

結果は表4に示すように全て定量限界値未満であった。

表2 輸入野菜・果物中の残留農薬検査結果

[単位：ppm]

検体名	検体数	検出農薬	検出率	検出値	定量限界値	残留基準値
グレープフルーツ	1	フェンプロパトリン	1 / 1	0.07	0.01	5
レモン	1	クロルピリホス	1 / 1	0.08	0.01	1
バナナ	1	クロルピリホス	1 / 1	0.03	0.01	3
	1	マイクロブタニル	1 / 1	0.04	0.01	2
ブルーベリー	1	シベルメトリン マラチオン	1 / 1	0.27 0.10	0.01 0.01	0.5 0.5
いんげん	1	検出農薬なし	0 / 1	—	—	—
ブロッコリー	1	検出農薬なし	0 / 1	—	—	—
ほうれん草	1	シベルメトリン	1 / 1	0.07	0.01	2
		メタラキシル及び メフェノキサム (メフェノキサムを除く)		0.02		
ちんげん菜	1	検出農薬なし	0 / 1	—	—	—
カボチャ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	—	—

表3 その他の野菜・果物(国内産、輸入品)

[単位：ppm]

検体名	検体数	検出農薬	検出率	検出値	定量限界値	残留基準値
なす	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
カボチャ	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—
小玉西瓜	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
ゴーヤ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
馬鈴薯	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
玄米(夢つくし)	1	フェントリン	1 / 1	0.01	0.01	0.02
玄米(元気つくし)	1	フェントリン	1 / 1	0.01	0.01	0.02
玄米(こしひかり)	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
とまと	1	クロルフェナピル	1 / 1	0.02	0.01	1
ピーマン	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
カブ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
小松菜	1	メタラキシル及びメフェノキサム (メフェノキサムを除く)	1 / 1	0.03	0.01	1
さつまいも	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
隼人うり	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
ダイコン	8	検出農薬なし	0 / 8	—	0.01	—
キュウリ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
ブロッコリー	3	検出農薬なし	0 / 3	—	0.01	—
白菜	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—
キャベツ	3	検出農薬なし	0 / 3	—	0.01	—
ねぎ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
カラシ菜	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
スイートスプリング	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—

※定量限界値(0.01以外のもの)ジフルフェニカン0.002、テルブホス0.005、フィプロニル0.002

表4 学校給食用物資残留農薬検査結果

[単位：ppm]

検体名	検体数	検出農薬	検出率	検出値	定量限界値	残留基準値
キウイフルーツ	2	クロソキシムメチル	1 / 2	0.02	0.01	1
バナナ	4	検出農薬なし	0 / 4	—	0.01	—
白ねぎ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
にんじん	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—
たまねぎ	1	検出農薬なし	0 / 1	—	0.01	—
(冷)グリーンピース	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—
乾燥きくらげ(スライス)	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—
ピーナッツバター*	2	検出農薬なし	0 / 2	—	0.01	—

*印以外の検体について234農薬の検査を実施。

※定量限界値(0.01以外のもの)ジフルフェニカン0.002、テルブホス0.005、フィプロニル0.002

表5 残留農薬検査対象物質(231種類)

No.	農 薬 名	No.	農 薬 名	No.	農 薬 名
1	BHC (α 、 β 、 γ 、 δ の総和)	39	エンドスルファンサルフェート	79	シニドンエチル
2	リンデン(γ -BHC)	40	エンドリン	80	シハロトリン
3	DDT (p,p' -DDD, p,p' -DDE, o,p' -DDT及び p,p' -DDTの総和)	41	オキサジアズン	81	シハロホップブチル
		42	オキサジキシル	82	ジフェナミド
4	EPN	43	オキシクロルデン	83	ジフェノコナゾール
5	EPTC	44	オキシフルオルフェン	84	シフルトリン
6	TCMTB	45	カズサホス	85	ジフルフェニカン
7	XMC	46	カフェンストロール	86	シプロコナゾール
8	アクリナトリン	47	カルバリル	87	シベルメトリン
9	アザコナゾール	48	カルフェントラゾンエチル	88	シマジン
10	アジンホスメチル	49	カルボフラン (カルボフラン代謝物を除く)	89	ジメタメトリン
11	アセトクロール			90	ジメチルビンホス
12	アトラジン	50	キナルホス	91	ジメテナミド
13	アニコホス	51	キノキシフェン	92	シメトリン
14	アメトリン	52	キャプタン	93	ジメピペレート
15	アラクロール	53	キントゼン	94	スピロキサミン
16	アラマイト	54	クレソキシムメチル	95	スピロジクロフェン
17	アレスリン	55	クロゾリネート	96	ターバシル
18	イサゾホス	56	クロマゾン	97	ダイアジノン
19	イソキサチオン	57	クロルエトキシホス	98	ダイアレート
20	イソキサチオンオキソン	58	クロルタールジメチル	99	チオベンカルブ
21	イソフェンホス及びイソフェンホスオキソン	59	クロルデン	100	チオメトン
		60	クロルピリホス	101	ディルドリン
22	イソプロカルブ	61	クロルピリホスメチル	102	テクナゼン
23	イソプロチオラン	62	クロルフェナピル	103	テトラクロルビンホス
24	イプロジオン	63	クロルフェンソン	104	テトラコナゾール
25	イプロベンホス	64	クロルフェンビンホス	105	テトラジホン
26	イミベンコナゾール (2,4-ジクロロアニリンを除く)	65	クロルブファム	106	テニルクロール
		66	クロルプロファム	107	テブコナゾール
27	ウニコナゾール p	67	クロルベンシド	108	テブフェンピラド
28	エスプロカルブ	68	クロロネブ	109	テフルトリン
29	エタルフルラリン	69	クロロベンジレート	110	デメトン-S-メチル
30	エチオン	70	シアノホス	111	デルタメトリン及びトラロメトリン (トラロメトリンを除く)
31	エディフェンホス	71	ジエトフェンカルブ		
32	エトキサゾール	72	ジオキサチオン		
33	エトフェンプロックス	73	ジクロシメット	112	テルブトリン
34	エトフメセート	74	ジクロフェンチオン	113	テルブホス
35	エトプロホス	75	ジクロホップメチル	114	トリアジメノール
36	エトリムホス	76	ジクロラン	115	トリアジメホン
37	エポキシコナゾール	77	ジコホール	116	トリアゾホス
38	エンドスルファン	78	ジスルホトン	117	トリアレート

No.	農 薬 名	No.	農 薬 名	No.	農 薬 名
118	トリシクラゾール	159	フェンクロルホス	200	プロモホスエチル
119	トリブホス	160	フェンスルホチオン	201	ヘキサコナゾール
120	トリフルラリン	161	フェンチオン	202	ヘキサジノン
121	トリフロキシストロビン	162	フェントエート	203	ベナラキシル
122	トルクロホスメチル	163	フェンバレレート	204	ベノキサコール
123	トルフェンピラド	164	フェンブコナゾール	205	ヘプタクロル (ヘプタクロル 及びヘプタクロルエポキシ ドを含む)
124	ナプロパミド	165	フェンプロパトリン		
125	ニトロタールイソプロピル	166	フェンプロピモルフ		
126	ノルフルラズン	167	ブタクロール	206	ベルタン
127	パクロプトラゾール	168	ブタミホス	207	ベルメトリン
128	パラチオン	169	ブチレート	208	ペンコナゾール
129	パラチオンメチル	170	ブピリメート	209	ベンダイオカルブ
130	ピコリナフェン	171	ブプロフェジン	210	ペンディメタリン
131	ビテルタノール	172	フラムプロップメチル	211	ベンフルラリン
132	ビフェノックス	173	フルアクリピリム	212	ベンフレセート
133	ピペロニルブトキシド	174	フルキンコナゾール	213	ホサロン
134	ピペロホス	175	フルシトリネート	214	ホスチアゼート
135	ピラクロホス	176	フルシラゾール	215	ホスファミドン
136	ピラゾホス	177	フルチアセットメチル	216	ホスメット
137	ピラフルフェンエチル	178	フルトラニル	217	ホルモチオン
138	ピリダフェンチオン	179	フルバリネート	218	ホレート
139	ピリダベン	180	フルフェンピルエチル	219	マラチオン
140	ピリフェノックス	181	フルミオキサジン	220	マイクロブタニル
141	ピリブチカルブ	182	フルミクロラックペンチル	221	メカルバム
142	ピリプロキシフェン	183	プレチラクロール	222	メタラキシル及びメフェノ キサム (メフェノキサムを除 く)
143	ピリミカーブ	184	プロシミドン		
144	ピリミジフェン	185	プロチオホス		
145	ピリミノバックメチル	186	プロパクロール	223	メチオカルブ (メチオカルブ スルホキシド、メチオカルブ スルホンを除く)
146	ピリミホスメチル	187	プロパジン		
147	ピリメタニル	188	プロパニル		
148	ピロキロン	189	プロパホス	224	メチダチオン
149	ビンクロゾリン	190	プロパルギット	225	メトキシクロール
150	フィプロニル	191	プロピコナゾール	226	メトミノストロビン
151	フェナミホス	192	プロピザミド	227	メトラクロール
152	フェナリモル	193	プロヒドロジャスモン	228	メフェナセット
153	フェニトロチオン	194	プロフェノホス	229	メフェンピルジエチル
154	フェノキサニル	195	プロボキスル	230	メプロニル
155	フェノチオカルブ	196	プロメトリン	231	レスメトリン
156	フェノトリン	197	プロモブチド		
157	フェノブカルブ	198	プロモプロピレート		
158	フェンアミドン	199	プロモホス		

(5) 魚介類中のPCBの検査

保健所食品監視検査課の依頼により、中央卸売市場に搬入された天然魚介類15検体のPCBの検査を行った。

結果はメアジ（1検体）から0.01ppm及びスズハモ（1検体）から0.01ppm、マルアジ（1検体）から0.02ppm検出された。それ以外は定量限界値未満であった。

(6) 食品添加物成分規格試験

保健所食品監視検査課からの依頼により、市内の食品添加物製造施設3社で製造された食品添加物製剤として、陽・陰イオン交換樹脂、次亜塩素酸ナトリウム、アンモニアの成分規格について試験を行った。結果は全て規格に適合していた。

(7) 食品用器具容器包装の検査

教育委員会学校保健課からの依頼により、PEN（ポリエチレンナフタレート）食器の椀と皿各4検体について、ビスフェノールA、フタル酸エステル類7種、及びノニルフェノールの溶出試験を行った。

結果は全て定量限界値未満であった。

(8) 家庭用品中の有害物質の検査

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく検査を行った。

生後24月以内の乳幼児用繊維製品55検体、かつら等の接着剤2検体、家庭用エアゾル製品3検体、家庭用洗剤3検体、家庭用木材防腐剤及び木材防虫剤1検体について、表6に掲げるとおりホルムアルデヒドほか有害物質の検査等を行った。

結果はすべて基準に適合していた。

(9) 地域保健総合推進事業

健康危機管理を目的に検査精度の向上を図るため平成26年度地域ブロック（九州）理化学部門精度管理事業に参加した。

参加機関は、地方衛生研究所全国協議会九州支部会員の12研究所で、今回の精度管理は、「レトルトカレーに含まれている農薬3種類の定性・定量分析」であった。

結果は、各自治体とも分析値のばらつきが大きかったがカレー等の加工食品は分析が難しく今後ブロック全体で分析法の向上等が必要なことが判明した。

表6 家庭用品の検体、検査項目一覧表

検査項目 検体名	ホルムアルデヒド		メタノール	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	ジベンゾ[a,h]アントラセン	ベンゾ[a]アントラセン	ベンゾ[a]ピレン
	24月以内	その他					
おしめ	2						
おしめカバー	2						
よだれかけ	8						
下着	6	4					
中衣	8						
外衣	8						
手袋	2						
くつ下	3	3					
帽子	4						
寝衣	4						
寝具	1						
かつら等の接着剤		2					
家庭用エアゾル製品			3				
家庭用洗剤				3			
家庭用木材防腐剤及び木材防虫剤					1	1	1
合計	48	9	3	3	1	1	1

2 受託業務

(1) 油症認定検診に係る血中PCB検査

委託元：福岡県油症対策連絡協議会

同協議会が毎年実施している油症認定検診の一環として、北九州市における受診者の血中PCBを分析した。

油症患者42名の血液、及び対照として北九州市、福岡県及び福岡市の3分析機関でおのおの調製した一般平常人の陰性血液並びに典型的陽性患者1名の血液について、合計46検体の分析を行った。

この結果は、他の検診項目の結果とともに集計され、油症治療班が行っている治療のための基礎データとして活用される。

なお、平成24年度よりGC/MS/MSを用いた分析法で行っている。

(2) 食品残留農薬等一日摂取量実態調査

委託元：平成26年度厚生労働省

(3 調査研究の項で、結果概要を報告)

3 食品検査信頼性確保

食品衛生検査施設における適正管理基準の実施に伴い、外部精度管理を毎年実施している。

平成26年度は、食品添加物1種、残留農薬3種、残留動物用医薬品1種、大腸菌群、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、E.coli検査の計9項目を実施し、すべて良好な結果であった。

平成26年度の実施項目は表7のとおり。

表7 外部精度管理の実施項目

分野	項目	食品
食品添加物	ソルビン酸	漬物
残留農薬	チオベンカルブ、マラチオン、クロルピリホス、テルブホス、フルシトリネート及びフルトラニルの6種農薬中3種	とうもろこしペースト
残留動物用医薬品	スルファジミジン	鶏肉（むね）ペースト
微生物	大腸菌群	ハンバーグ
	黄色ブドウ球菌	マッシュポテト
	サルモネラ属菌	液卵
	E.coli検査	ハンバーグ

微生物部門



1 試験検査業務

(1) 食中毒・有症苦情等の細菌・ウイルス検査

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、食中毒の疑い（有症苦情を含む）で13事例、324検体について食中毒原因菌、ウイルスの検査を行った。

ウイルス検査は、原則ノロウイルスを対象とした。表1に検査件数と結果を示した。

このうち、市内発生 of 食中毒は5件で、細菌性食中毒が3件、ウイルス性食中毒が1件、寄生虫による食中毒が1件であった。

原因の内訳は、カンピロバクター属菌によるものが2件、その他の病原性大腸菌によるものが1件、サポウイルスによるものが1件、クドア・セプテンブクタータによるものが1件であった。

表2に市内発生 of 食中毒事件の概略をまとめた。

表1 食中毒(疑)・有症苦情等検査件数

事例番号	地区	発生日	細菌検査				ウイルス検査				検出微生物もしくは特記事項	
			患者便等	従業員便	ふき取り	食品・水	計	患者便等	従業員便	食品		計
1	西部	4						6	4		10	ノロウイルスG I
★2	東部							13	13		26	サポウイルス
★3	東部		17	4	5		26					カンピロバクター属菌
★4	東部	6	19	6	10	5	40	19	1		20	その他の病原性大腸菌(<i>astA</i> 保有)
5	西部	7	10	11	23	15	59	6	4		10	黄色ブドウ球菌、ウェルシュ菌
6	西部	8		6	14		20		6		6	ノロウイルス
★7	東部					1	1					
★8	西部	10	5	4	10		19					カンピロバクタージェジュニ、コリ
9	西部	12	6	2	10	10	28	6	2		8	黄色ブドウ球菌、セレウス菌
10	東部								1			1
11	東部	2						6	1		7	ノロウイルスG I、G II
12	東部	3						7	3		10	ノロウイルスG II
13	西部							6	8		14	ノロウイルスG I
計			57	33	72	31	193	70	42		112	

★印は食中毒事件と判定されたもの

表2 市内発生食中毒事件の概略

発生日	発生場所	摂食者数	患者数	原因食品	原因物質	原因施設
26年 4月5日	小倉北区	107	66	仕出し弁当(推定)	サポウイルス	飲食店
4月18日	小倉北区	61	32	宴会コース料理(推定)	カンピロバクター属菌	飲食店
5月25日	小倉南区	266	174	仕出し弁当(推定)	その他の病原性大腸菌(<i>astA</i> 保有)	仕出し屋
8月15日	門司区	7	7	ヒラメの刺身	クドア・セプテンブクタータ	飲食店
10月19日	八幡東区	19	8	不明	カンピロバクター属菌	飲食店

(2) 食品衛生に関わる細菌・ウイルス及び残留抗生物質の検査

① 学校給食物資の細菌及び残留抗生物質の検査

教育委員会学校保健課の依頼により、学校給食物資の豚肉（スライス）28検体と野菜4検体（にんじん、たまねぎ、白ねぎ）について、食中毒原因菌であるサルモネラ属菌、カンピロバクター属菌、腸管出血性大腸菌（ベロ毒素遺伝子の検出）の検査を行った。また豚肉については、残留抗生物質について食品の規格基準に基づく検査を行った。検査の結果、豚肉2検体からベロ毒素遺伝子が検出された。

② 畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査

厚生労働省実施事業「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査」の一環として、保健所食品監視検査課の依頼により、国内産の鶏卵6検体、鶏肉2検体、生乳1検体について、食品の規格基準に基づく抗生物質とベンジルペニシリン（鶏卵は除く）の残留検査を行った。検査の結果、全て基準値未満であった。

③ 市内流通食品のモニタリング検査で検出された菌株の同定

厚生労働省からの委託事業「食中毒菌汚染実態調査」の一環として、保健所食品監視検査課が市内流通食品を対象に微生物検査を実施している。例年、この検査で腸管出血性大腸菌、サルモネラ属菌もしくはカンピロバクター属菌が検出された場合に、当所において菌株の精査を行っている。26年度は、鶏ミンチ等6検体から分離された8菌株について、菌種を同定した。結果を表3に示す。

④ カキのノロウイルス汚染実態調査

保健所東部生活衛生課の依頼により、12月から1月までの冬季の2か月間、月1回、市内4箇所の養殖場のカキ（浄化後）について、リアルタイムPCR法を用いてノロウイルスの検査を実施した。総計9検体を検査した結果、全て陰性であった。

表3 食品由来のサルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌の同定結果

搬入月	検出由来品名	同定結果
10月	鶏ムネ刺 (1菌株)	カンピロバクター属菌ではない
12月	鶏ミンチ (2菌株)	<i>Salmonella</i> Infantis (O7:r:1,5)
	牛ミンチ (2菌株)	<i>Salmonella</i> Infantis (O7:r:1,5)
	鶏レバ刺し (1菌株)	<i>Salmonella</i> Bareilly (O7:y:1,5)
	鶏ミンチ (1菌株)	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1,7)
	豚ミンチ (1菌株)	<i>Salmonella</i> Infantis (O7:r:1,5)

(3) 遺伝子組換え食品検査

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、トウモロコシ加工品20検体について、安全性未審査の遺伝子組換えトウモロコシCBH351の遺伝子を定性PCR法により検査した。結果はすべて陰性であった。

(4) 感染症発生動向調査事業の病原体調査

感染症サーベイランス事業における市内の病原体定点から送付される患者検体について病原体検査を実施した。

ウイルス分離には、HEp-2、RD-18S、Veroの3種類の細胞（インフルエンザ様疾患についてはMDCKを加えた4種類とした）を用い、CPEを指標に3代目まで、必要に応じて5代目まで継代分離を行った。インフルエンザウイルスについては国立感染症研究所より配布された標準抗原・抗体を用いてHI試験により同定を行った。その他の分離されたウイルスは、型特異抗血清を用いた中和試験、直接蛍光抗体法またはPCR検査により同定した。感染性胃腸炎の便検体は、IC検査とPCR検査で同定した。

平成26年度は、総計273検体のうち151検体より表4に示すウイルスを検出した。

(5) インフルエンザの流行状況

① 感染症サーベイランス事業の病原体検査

今冬シーズンは、平成26年12月から27年3月に65検体（全て咽頭拭い液）が搬入され、その内49検体からインフルエンザウイルスが分離された。サーベイランスの検体としては、平成26年12月20日採取の検体からシーズン初のインフルエンザウイルスが検出された。今シーズン分離されたインフルエンザウイルスは全てAH3亜型であった。平成27年1月搬入の1検体について薬剤感受性試験を国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター第一室に依頼したところ、オセルタミビル感受性低下株であった。

② 集団発生の探知

保健所保健予防課から依頼された集団発生事例の検査を行った。平成26年11月7日に若松区の小学校で集団発生があり、うがい液5検体についてウイルス分離を行った結果、4検体からAH3亜型が分離された。

(6) 性感染症の抗体検査

① HIV（ヒト免疫不全ウイルス）抗体検査

エイズ対策推進のなかで、保健所保健予防課及び小倉北・八幡西区役所保健福祉課の依頼によりHIV抗体検査を行った。月1回の保健所での夜間受付検体のうち確認が必要な検体及び毎週1回の2か所の区役所で

採取した血液について検査した。

スクリーニングはEIA法及びPA法で行い、確認検査はWB法で実施した。総計580検体を検査した結果、陽性は3検体であった。

② クラミジア抗体検査

保健所保健予防課及び小倉北・八幡西区役所保健福祉課の依頼により、性感染症対策の検査（平成14年開始）のなかで採血した検体について、クラミジア抗体検査を行った。EIA法によりIgA抗体とIgG抗体を測定した。総計568検体を検査した結果、陽性は175検体であった。

③ 梅毒抗体検査

保健所保健予防課及び小倉北・八幡西区役所保健福祉課の依頼により、性感染症対策の検査（平成14年開始）のなかで採血した検体について、梅毒抗体検査を行った。イムノクロマトグラフィー法で抗TP抗体の測定、炭末凝集法でカルジオライピン抗体の測定を行った。総計568検体を検査した結果、陽性は11検体であった。

(7) その他の感染症関連検査

市内で発生した感染症法関連の患者や感染者、接触者等について、保健所保健予防課の依頼により、分離株の同定、生化学性状の確認や血清型別を行った。

① 腸管出血性大腸菌

平成26年度に市内の医療機関から報告のあった腸管出血性大腸菌感染者は47名であった。検出された血清型はO157:H7が38名、O157:HNMが2名、O26:H11が3名、O26:HNM及びO145:HNMが各2名であった。

47株中VT1及びVT2遺伝子を保有するものが33株、VT1遺伝子のみ保有するものが6株、VT2遺伝子のみ保有するものが8株あった。以上の結果を表5にまとめた。

② 細菌性赤痢

10月に市内幼稚園で細菌性赤痢患者の集団発生が起こった。患者から分離された赤痢菌（*Shigella sonnei*）17菌株について、PFGE法による分子疫学的解析を行った結果、全ての菌株が同一のパターンを示したことから、共通の感染源であることが示唆された。

③ レジオネラ菌

7月に尿中抗原により診断されたレジオネラ症患者の喀痰2検体の原因菌の分離と同定を行った。喀痰は、スプタザイムによる前処理を行い、BCYE α 、GVPC α 及びWYO α 培地を用いて原因菌の分離を試みたが、菌培養陰性であった。

④ ライム病

11月と12月にライム病の疑似患者が2名発生し、

血清及び髄液について抗体検査及び遺伝子検査を依頼された。当所はライム病の抗原及び遺伝子検査試薬を保有していないため、検査を国立感染症研究所に依頼した。結果は全て陰性で、感染は確認できなかった。

⑤ 麻疹ウイルス

5月に搬入された麻疹疑いの患者1名2検体の尿及び咽頭拭い液について、麻疹ウイルスH遺伝子及びN遺伝子のRT-PCR検査を行なった。検査結果は陰性であった。

⑥ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

平成26年5月と平成27年3月に2名のSFTS疑い患者の血液(血清)2検体について遺伝子検査を行ったが、結果は陰性であった。

⑦ A型肝炎

平成26年4月、5月と平成27年3月に6名7検体の便についてRT-PCRにより検査を行い、3名3検体が陽性であった。陽性になった検体について遺伝子型別を検索した結果全てIA型であった。

⑧ デング熱

10月から11月にかけて3名3検体の血清についてRT-PCR検査を行い、デングウイルス1型と3型が1検体ずつ検出された。デングウイルスが検出された2名とも海外渡航経験があった。

⑨ インフルエンザ脳症

平成27年1月にインフルエンザ脳症疑いの検体が髄液1検体搬入され、ウイルス分離、遺伝子検査によるウイルス検査を行ったがウイルスは検出されなかった。

(8) 公衆浴場水のレジオネラ属菌検査

① 実態調査

保健所東部生活衛生課及び西部生活衛生課の依頼により、市内の公衆浴場水を対象としたレジオネラ属菌の定量と遺伝子有無の検査を行った。7月に14施設69検体、11、12月に14施設69検体の検査を行った。

定量の試験法は「第3版レジオネラ症防止指針(財団法人ビル管理教育センター)」に準じた。検査の結果、7月は3施設6検体、11月、12月は2施設4検体が公衆浴場における水質基準に関する指針値である「10CFU/100ml未満」を満たしていなかった。

遺伝子の有無はLAMP法を用いて検査を行い、7月は7施設16検体で、11月は7施設14検体で遺伝子を検出した。

② 患者発生に伴う水質検査

レジオネラ症患者発生に伴う疫学調査の一環として、患者が利用した施設の浴槽水等の調査依頼が2

件あった。

7月に保健所東部生活衛生課の依頼で1施設の浴槽水6検体、12月に保健所保健予防課の依頼で1施設の浴槽水1検体及び拭き取り10検体についてレジオネラ属菌の定量検査を行ったが、全て陰性であった。

(9) その他の行政依頼検査

B型肝炎抗原抗体検査

8月に保健福祉局総務課の依頼で、保健福祉局の医療従事者のB型肝炎予防対策の目的で保健福祉局、各区役所の職員27名の血清検査(HBs抗原・抗体検査)をEIA法により行った。

表4 感染症サーベイランス検査結果

臨床診断名(検体数)	検体名	検査結果			
		検体数	陰性	陽性	検出ウイルス(検出数)
無菌性髄膜炎(6)	髄液	3	1	2	CB3 (1)、ムンプス(1)
	咽頭拭い液	2	1	1	ムンプス(1)
	便	1	0	1	CB3 (1)
ヘルパンギーナ(3)	咽頭拭い液	3	1	2	CA4 (1)、CA10 (1)
感染性胃腸炎(71)	便	70	27	43	ノロG I (1)、ノロG II (21)、A群ロタ(9)、アデノ(4)、サポ(3)、アストロ(1)、パレコ(4)
	咽頭拭い液	1	1	0	
手足口病(3)	咽頭拭い液	3	0	3	CA6 (10)、EV71 (2)
インフルエンザ様疾患(73)	咽頭拭い液	73	4	69	Inf AH3 (61)、Inf B (8)
流行性角結膜炎(3)	結膜拭い液	3	2	1	AD型別不明(1)
流行性耳下腺炎(1)	髄液	1	0	1	ムンプス(1)
A群溶血性レンサ球菌(3)	咽頭拭い液	3	3	0	
細菌性髄膜炎(1)	髄液	1	1	0	
その他(109)	咽頭拭い液	93	72	21	AD1 (2)、AD3 (1)、E3 (1)、E16 (1)、EV71 (1)、CA4 (1)、CA8 (1)、CA12 (1)、CA21 (2)、CB3 (5)、HSV1 (1)、ライノA (3)、Inf AH3 (2)
	髄液	2	2	0	
	便	8	1	7	
	尿	1	1	0	ノロG II (3)、A群ロタ(1)、アデノ(1)サポ(1)、パレコ(1)
	結膜拭い液	2	2	0	
	その他	3	3	0	
計		273	122	151	

表5 腸管出血性大腸菌の血清型及びベロ毒素遺伝子検査結果

No.	分離 月日	血清型		ベロ毒素 遺伝子型	
		O型	H型	VT1	VT2
1	4. 7	157	7	-	+
2	4. 7	157	7	-	+
3	5.21	26	NM	+	-
4	7. 7	26	NM	+	-
5	7.16	26	11	+	-
6	7.22	26	11	+	-
7	7.22	157	7	+	+
8	7.23	157	7	+	+
9	7.29	157	7	+	+
10	7.31	26	11	+	-
11	8. 1	157	7	+	+
12	8. 1	157	7	+	+
13	8. 2	157	7	+	+
14	8. 4	157	7	+	+
15	8. 5	157	7	+	+
16	8. 7	157	7	+	+
17	8. 7	157	7	+	+
18	8. 7	157	7	+	+
19	8. 8	157	7	+	+
20	8.11	157	7	+	+
21	8.11	157	7	+	+
22	8.14	157	7	+	+
23	8.16	157	7	+	+
24	8.18	157	7	+	+
25	8.18	157	7	+	+
26	8.18	145	NM	-	+
27	8.19	157	7	+	+
28	8.20	157	7	-	+
29	8.23	157	7	-	+
30	8.23	157	7	-	+
31	8.25	157	7	+	+
32	8.25	157	7	-	+
33	8.25	157	7	-	+
34	8.26	157	7	+	+
35	8.28	157	7	+	+
36	8.29	157	7	+	+
37	9.16	157	7	+	+
38	9.18	145	NM	+	+
39	9.22	157	7	+	+
40	9.26	157	7	+	+
41	10.20	157	7	+	+
42	10.22	157	7	+	+
43	11.13	157	7	+	+
44	11.26	157	NM	+	+
45	12. 4	157	7	+	+
46	2. 6	157	NM	+	-
47	3.11	157	7	+	+

NM : non motile

そ の 他



1 環境国際協力

当研究所では、昭和61年度から主に(独)国際協力機構(JICA)の国際研修員を受け入れている。

研修内容は、主に環境分析と保健検査の実習である。

平成26年度は、表1のとおり上記2コースに加え、日中大気環境改善事業の關係で上海市、天津市からの研修生、さらに、公立大学法人北九州市立大学の依頼によりモンゴル人の研修生を受け入れたことより計5コース40名の受け入れとなった。

表1 国際研修

実施期日	研修コース名	研修員人数
5/29	大気汚染源管理コース	10名
11/11	食品衛生行政のための行政強化コース	11名
11/13	公立大学法人北九州市立大学依頼(モンゴル)	6名
12/1	日中大気環境改善事業(上海)	6名
2/4	日中大気環境改善事業(天津)	7名
5コース		40名

2 技術研修

当研究所では、市内外の公的研究機関などを対象に職務に関連した様々な技術研修を行っている。平成26年度は耐震工事期間中であり、受け入れを行わなかった。

3 講師派遣

当研究所では、他機関における講演会や学習会等への講師派遣を行っている。平成26年度は合計2件で、表2のとおりである。

表2 講師派遣

期日	講義内容	依頼機関	人数
6/28	私たちの身の回りの化学物質	消費者学級「フェニックス」	5名
7/2	環境科学研究所の業務について	福岡県立小倉高等学校SSHクラス	37名

4 視察・施設見学

当研究所では、国や他の自治体職員の視察や、学校や市民の学習会における施設見学を受け入れている。平成26年度実績は表3のとおり、1件37名を受け入れた。

表3 視察・施設見学

月日	所属団体	対象者	人員
8/1	福岡県立小倉高等学校	生徒	37名

5 合同成果発表会

福岡県内の自治体保健環境研究機関(福岡県保健環境研究所、福岡市保健環境研究所、北九州市環境科学研究所)の最近の研究成果の発表会を公開形式で開催している。平成26年度の幹事自治体は福岡県で、保健部門及び環境部門において、それぞれ1題ずつ講演を行った。特別講演は厚生労働省九州厚生局麻薬取締部指定薬物対策官の小野原光康氏による「危険ドラッグと現状について」であった。当研究所分の講演要旨については、第3部を参照。開催実績は表4のとおり。

表4 開催実績

月日	開催場所	出席者	人員
10/31	福岡市市民福祉プラザ	関係者及び一般市民	95名

6 会議・学会・研修会への参加

平成26年度は表5のとおりである。

表5 会議・学会・研修会への参加

	開催日	会議等の名称	開催地等
企画調整部門・全体	6/5～6	平成26年度全国地方衛生研究所長会議及び地方衛生研究所全国協議会臨時総会等	東京都
	7/10～11	平成26年度地方衛生研究所全国協議会九州支部総会及び全国環境研協議会九州支部総会	熊本市
	8/21	平成26年度地方衛生研究所第1回地域ブロック会議	鹿児島市
	8/21～23	平成26年度指定都市衛生研究所長会議	浜松市
	11/4	平成26年度第64回地方衛生研究所全国協議会総会	宇都宮市
	10/9～11	第40回九州衛生環境技術協議会	那覇市
	1/9	平成26年度地方衛生研究所第2回地域ブロック会議	鹿児島市
	2/4～5	第43回全国環境研協議会総会及び平成26年度地方公共団体環境試験研究機関等所長会議	東京都
環境部門	5/27～28	地環研等Ⅱ型共同研究(PM2.5)会合	東京都
	7/22	平成25年度環境測定分析統一精度管理調査結果説明会	福岡市
	8/27～29	走査型電子顕微鏡講習会	昭島市
	9/3	平成26年度化学物質環境実態調査分析法開発検討会議	東京都
	9/8～9	地環研等Ⅱ型共同研究(藻場・干潟)会合	広島市
	1/29～30	平成26年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー	東京都
	2/12～13	第30回全国環境研究所交流シンポジウム	つくば市
	2/20	平成26年度化学物質環境実態調査分析法開発検討会議	東京都
3/26～28	2015年度日本付着生物学会	東京都	
衛生化学部門	6/12～13	全国油症治療研究班会議	福岡市
	10/9～10	第40回九州衛生環境技術協議会	富山市
	10/30～31	平成26年度地方衛生研究所地域専門者会議	鹿児島市
	11/20～21	平成26年度全国衛生化学技術協議会年会	佐賀市
	12/3～5	平成26年度日本食品衛生学会	金沢市
	2/12～13	平成26年度地方衛生研究所衛生化学分野研修会	東京都
	2/13～14	平成26年度食品化学研究者基礎セミナー	東京都
	2/27	平成26年度地方衛生研究所九州ブロック精度管理事業結果検討会	鹿児島市
微生物部門	6/26～27	衛生微生物技術協議会第35回研究会	東京都
	7/5	第22回SADI大宰府大会2014	太宰府市
	10/10	平成26年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	東京都
	11/7	地方衛生研究所地域レファレンスセンター連絡会議	鹿児島市
	11/30～12/3	バイオセーフティ技術講習会	習志野市
	12/3～12/5	エンテロウイルス検査に係るワークショップ	東京都
	12/12	平成26年度衛生薬業センター健康危機管理研修	佐賀市
	2/16～18	平成25年度希少感染症診断技術研修会	東京都
3/2～3	厚労省通知法による腸管出血性大腸菌検査実習	東京都	